

令和4年度全国学力・学習状況調査結果の分析と改善に向けて

1 調査の概要

(1) 実施期日

令和4年4月19日(火)実施

(2) 調査対象学年

小学校第6学年(日田市:559人) 中学校第3学年(日田市:525人)

(3) 調査内容

教科 小学校第6学年 国語、算数、理科

中学校第3学年 国語、数学、理科

質問紙調査(児童・生徒)

(4) 調査内容の説明

「知識」に関する内容と「活用」に関する内容を一体的に問う調査問題

質問紙調査(児童・生徒)

・児童生徒を対象に学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

(5) 用語の説明

正答率:全設問に対して児童生徒が正答した割合(集団の場合は平均値)

全国比:全国の平均正答率を100とみたときの日田市の割合。

2 結果の概要

【小学校6年生】

平均正答率(%) 色付き部分は全国値以上

	小学校6年生		
	国語	算数	理科
日田市	64	64	65
大分県	66	64	64
全国	66	63	63
全国比	97	102	103

【中学校3年生】

平均正答率(%) 色付き部分は全国値以上

	中学校3年生		
	国語	数学	理科
日田市	69	47	47
大分県	69	52	49
全国	69	51	49
全国比	100	92	96

3 教科に関する調査結果の分析及び改善の方策

小学校6年生 国語

結果の概要

平均正答率は全国平均正答率を下回った。
領域・事項は、「書くこと」で全国平均を上回り、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと聞くこと」「読むこと」は下回った。
評価の観点は、「知識・技能」で全国平均並み、「思考・判断・表現」で全国平均を下回った。
問題形式は「記述式」「選択式」「短答式」のすべてで全国平均を下回った。

教科領域結果 : できている点 : 課題がある点

言葉の特徴や使い方に関する事項

話し言葉と書き言葉の違いを理解すること。
言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることをとらえること。

話すこと聞くこと

必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えること。
互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめること。

書くこと

文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。
文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。

読むこと

登場人物の相互関係について、描写を基に捉えること。
人物像や物語の全体像を具体的に想像すること。

学びに向かう力に関連すること

無回答率（解答しなかった児童の割合）は全ての問題で全国よりも低い。

具体的な授業改善の方策・ポイント

話し合いをするにあたっては、
話し合いを始める際に話し合いの目的は方向性を検討すること
話し合いの展開や内容を踏まえて互いの意見整理すること
様々な視点から検討して自分の考えをまとめること
が重要。

400字程度の短作文を「序論 - 本論 - 結論」、「頭括型」、「尾括型」、「双括型」等、文章構成を指定して書く機会を定期的に設けるとともに、互いに見合い感想や意見を伝え合う場をつくる。

登場人物の相互関係を捉えるためには、物語の一部分を取り上げるのではなく、物語全体を通して、相互関係について描かれている複数の描写に着目しながら読むことができるようにする。物語全文が一枚の用紙に掲載されたシートを活用したり、物語の展開に合わせて人物相関図などに表したりすることなども考えられる。

小学校6年生 算数

結果の概要

平均正答率は全国平均正答率を下回った。
領域は、「数と計算」「変化と関係」で全国を上回り、「図形」「データの活用」で下回った。
観点は、「知識・技能」で全国を下回り、「思考・判断・表現」で上回った。
問題形式は、「選択式」で全国を下回り、「短答式」「記述式」で全国を上回った。

教科領域結果 : できている点 : 課題がある点

数と計算

示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる。
表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる。

図形

示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる。
図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している。

変化と関係

百分率で表された割合を分数で表すことができる。

データの活用

目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる。

学びに向かう力に関連すること

無回答率（解答しなかった児童の割合）はすべての問題で全国よりも低い。

具体的な授業改善の方策・ポイント

問題から既習の図形を抽出する場面や問題提示や考えを出し合う場面で視覚的に捉えさせるためにICT機器を積極的に活用することで、図形を構成する要素に着目できるようにする。

割合の問題では、伴って変わる二つの数量の関係を見出すために、比例数直線図をかくことや比例数直線図から立式することができるように、単元を通して比例数直線図を扱い慣れさせる。

データを分類整理する学習では、表の意味やグラフの特徴を理解し、目的に応じて、表がグラフに表したり、表やグラフからデータの特徴や傾向を読み取ったりできるようにすることが大切。

小学校6年生 理科

結果の概要

平均正答率は全国平均正答率を上回った。
領域は、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」のすべてで全国平均を上回った。
観点は、「知識・技能」「思考・判断・表現」で全国を上回った。
問題形式は、「選択式」「短答式」「記述式」のすべてで全国平均を上回った。

教科領域結果 : できている点 : 課題がある点

「エネルギー」を柱とする領域

日光は直進することを理解している。
実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。

「粒子」を柱とする領域

メスシリンダーという器具を理解している。
自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる。

「生命」を柱とする領域

自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。
観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる。

「地球」を柱とする領域

予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる。
水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している。

学びに向かう力に関連すること

無回答率（解答しなかった児童の割合）はすべての問題で全国よりも低い。

具体的な授業改善の方策・ポイント

自然の事物・現象に働きかけて得た事実について、自分や他者の気付きを基に分析して、解釈し、問題を見出すことができるようにするために、事実を比較し、差異点や共通点を捉えることができるようにすることが重要。

学習指導要領に学年ごとに明記された「問題解決の力」を4年間を通して意図的・計画的に育成する。

【第3学年】差異点や共通点を基に、問題を見いだす力

【第4学年】既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する力

【第5学年】予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力

【第6学年】より妥当な考え方をつくりだす力

中学校3年生 国語

結果の概要

【国語】

平均正答率は、全国平均正答率と同じ。

領域・事項は、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「書くこと」で全国平均を上回り、「話すこと・聞くこと」「読むこと」で全国平均を下回った。

評価の観点は、「知識・技能」で全国平均を上回り、「思考・判断・表現」で全国平均を下回った。

問題形式は、「選択式」「短答式」「記述式」で全国平均を下回った。

教科領域結果 : できている点 : 課題がある点

言葉の特徴や使い方に関する事項

表現の技法について理解する。

情報の扱い方に関する事項、書くこと

自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く。

我が国の言語文化に関する事項

漢字の行書の読みやすい書き方について理解する。

漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する。

話すこと・聞くこと

聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する。

論理の展開などに注意して聞く。

読むこと

場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える。

場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する。

学びに向かう力に関連すること

無回答率（解答しなかった生徒の割合）は全ての問題で全国よりも低い。

具体的な授業改善の方策・ポイント

自分の考えが分かりやすく伝わるように話すために、聞き手に応じた語句を選択したり、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意したりして、表現を工夫することが大切。指導に当たっては、相手を意識しながら実際に声に出しながら工夫を考えたり効果を確かめたりすることが重要。

文学的な文章を読む際には、登場人物の行動や心情などの変化を捉えるために、心情を表す言葉を取り上げてその変化をたどったり、叙述の細かな違いに注意して読み、それぞれの叙述が表している心情の違いを考えたりする学習活動が考えられる。

中学校3年生 数学

結果の概要

平均正答率は全国平均正答率を下回った。
領域は、「関数」「資料の活用」で全国を上回り、「数と式」「図形」で下回った。
観点は、「数学的な技能」で全国を上回り、「数学的な見方や考え方」「数量や図形など」についての知識・理解」で下回った。
問題形式は、「短答式」で全国を上回り、「選択式」「記述式」で下回った。

教科領域結果 : できている点 : 課題がある点

数と式

自然数を素数の積で表すことができる。
簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。
問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。
目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。

図形

証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。
筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる。

関数

一次関数の変化の割合の意味を理解している。
与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。
事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。

データの活用

データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。
箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる。

学びに向かう力に関連すること

無回答率（解答しなかった生徒の割合）は14問中11問で全国よりも低い。

具体的な授業改善の方策・ポイント

連立二元一次方程式を解く場面において、二つの文字のうち一方の文字を消去して一元一次方程式に帰着させて解くといった方針に基づいて、加減法や代入法を用いて説くことができるように指導する。

伴って変わる二つの数量 x 、 y の変化の様子を表から読み取り、一次関数 $y = ax + b$ の変化の割合を求めることができるようにする。変化の割合は x の増加量に対する y の増加量の割合であり、 $\frac{y \text{ の増加量}}{x \text{ の増加量}}$ で求められることや、変化の割合は x の増加量が1のときの y の増加量であることを捉えることができるようにする。

日常生活や社会の事象を題材とした問題などを取り上げ、統計的に問題解決することができるように指導する。その際、問題を解決するために計画を立て、必要なデータを収集して処理し、データの分布の傾向を捉え、その結果を基に批判的に考察し判断するという一連の活動を充実させる。

中学校3年生 理科

結果の概要

平均正答率は全国平均正答率を下回った。
領域は、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」で全国平均を下回った。
観点は、「知識・技能」「思考・判断・表現」で全国平均を下回った。
問題形式は、「短答式」で全国平均を上回り、「選択式」「記述式」で下回った。

教科領域結果 : できている点 : 課題がある点

「エネルギー」を柱とする領域

化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおもとして必要なものを分析して解釈できる。
力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつりあう力を矢印で表し、その力を説明できる。
課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いている。

「粒子」を柱とする領域

実験の結果が考察の根拠として十分かどうか検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できる。
水を電気分解して発生させた水素を燃料として使う仕組みを探究する学習場面において、粒子の保存性の視点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈できる。

「生命」を柱とする領域

アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができる。
予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見通しをもつことができる。

「地球」を柱とする領域

観察した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できる。
玄武岩の露頭で化石が観察できる。

学びに向かう力に関連すること

無回答率（解答しなかった生徒の割合）は21問中17問で全国よりも低い。

具体的な授業改善の方策・ポイント

身に付けた知識と日常生活における経験を関連付け、身近な事象の中に問題を見いだして課題を設定し、科学的に探究する過程を通して、理科を学ぶことの意義や有用性の実感を高めることが大切。授業では、実験を計画する際に、事象の観察を通して抽出した要因を整理して、適切に条件を制御することが考えられる。

天気の変化を科学的に探究する上で、温帯低気圧に関する知識を活用し、観測データから読み取った情報を天気図と関連付けて考察することが大切。観測データとタブレット型端末で空の様子を撮影した画像を、天気図と関連付けて考察したり、複数の観測データから読み取った情報を統合し、分析して解釈したりする学習場面を設定する。

4 児童・生徒質問紙調査結果について

(1) 生活習慣・家庭での学習習慣等に関する回答状況 (数値は肯定的回答の割合 %)

色つき：全国値より5ポイント以上

太線枠：全国値より5ポイント以下

【自尊意識・将来に対する意識・学校生活・規範意識等】

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
自分には、よいところがあると思いますか	79.6	78.8	79.3	76.1	77.4	78.5
将来の夢や目標を持っていますか	79.7	78.7	79.8	66.2	68.5	67.3
学校に行くのは楽しいと思いますか	82.5	85.2	85.4	81.8	84.0	82.9

【基本的な生活習慣・家庭での学習習慣】

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
朝食を毎日食べていますか	93.7	93.9	94.4	91.6	92.9	91.9
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	66.5	70.7	71.1	54.7	57.1	58.5

【社会に対する意識・地域との関わり】

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
新聞を読んでいますか 週に1回以上	10.2	10.0	13.8	7.0	7.5	9.4
今住んでいる地域の行事に参加していますか	69.8	53.4	52.7	56.2	41.8	40.0

(2) 教科の学習に対する関心・意欲・態度に関する回答状況

【国語(読書)に関すること】

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
国語の勉強は好きですか	60.8	63.2	59.2	66.5	64.8	61.9
国語の勉強は大切だと思いますか	93.4	93.8	93.3	92.6	93.4	93.2
国語の授業の内容はよくわかりますか	83.6	86.0	84.0	78.6	81.2	81.2
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	90.5	92.2	91.8	91.1	90.1	89.7
解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか 全て最後まで書こうと努力した	83.0	82.7	78.0	83.2	79.8	77.3

【算数・数学に関すること】

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
算数・数学の勉強は好きですか	65.8	65.2	62.5	53.7	57.0	58.1
算数・数学の勉強は大切だと思いますか	93.4	94.6	94.2	82.5	85.9	86.6
算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	82.7	82.1	81.2	66.2	71.3	76.2
算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.3	93.9	93.3	72.5	77.1	76.5
算数・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	65.0	69.8	69.3	42.5	48.4	47.3
新算数・数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	77.2	80.5	80.4	68.9	72.4	75.2
新算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	74.8	75.9	76.8	63.6	67.7	70.2
新算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	85.7	86.7	85.7	76.7	77.2	79.6
言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く(解答を言葉や数、式を使って説明する)問題がありましたか どのように解答しましたか 全てで最後まで書こうと努力した	86.0	85.4	82.8	53.4	56.0	53.4

【理科に関すること】

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
新理科の勉強は好きですか	81.4	77.2	79.7	66.6	69.9	66.4
新理科の勉強は大切だと思いますか	87.6	86.1	86.5	75.9	78.2	76.8
新理科の授業の内容はよく分かりますか	89.4	88.3	88.5	66.4	75.7	75.2
新理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	64.2	66.9	67.9	46.1	53.5	52.7
新理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	77.5	77.5	77.2	58.8	62.2	61.5
新将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	25.2	26.0	26.6	22.0	21.5	22.1
新理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	76.6	74.6	78.0	59.0	62.1	64.5
新理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのかを考えていますか（観察や実験の結果をもとに考察していますか）	85.7	83.4	84.9	69.8	72.9	78.9
新理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	72.3	72.2	72.2	64.7	65.8	68.1
新今回の理科の問題では、解答を文章などで書く問題がありましたが、どのように解答しましたか	85.7	84.0	80.6	74.6	75.5	74.0

【授業改善・学習指導】 「主体的・対話的で深い学び」「新大分スタンダード」に関連

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	78.1	78.5	80.1	75.1	77.9	78.8
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	74.2	78.3	77.3	75.3	78.6	79.2
自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか	54.0	60.0	65.4	57.9	56.9	63.3

(3) 分析

【小学校6年生】

週に1回以上新聞を読む児童の割合が低いことから、地域以外の社会に対する意識を高める環境が整っていないことが考えられる。

昨年度と同様、全国に比べ積極的に地域行事へ参加しており地域との結びつきが強いことから、児童の健全育成のために地域から協力を得やすい環境である。

記述問題に対して「全てで最後まで書こうと努力した」と回答した児童の割合が全国よりも5ポイント高く、最後まであきらめず取り組む粘り強さがある。

「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している」回答した児童の割合が全国値を10ポイント以上回っており、発表の機会の保証だけではなく、自分の考えを伝えるためのスキルを身につけさせる必要がある。

【中学校3年生】

数学に対する愛好度が低く、それに伴って「授業がよくわかる」「諦めずにいろいろな方法を考える」「もっと簡単に解く方法がないか考える」などの割合も低い。

理科に対する愛好度は全国値以上であるが、観察や実験の計画や結果に対する分析等についての肯定的回答が低いことから、新型コロナウイルス感染症防止の観点からグループでの観察や実験などの活動に制限があったことが影響していると考えられる。

「国語が好き」と答えた生徒の割合が高く、教科への愛好度と教科の正答率は関連している傾向にある。

「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している」回答した生徒の割合が全国値を5ポイント以上回っており、自分の考えは持てるものの相手を意識した伝え方のスキルが身につけていないことが考えられる。

改善の方策

小学校、中学校ともに話し合い活動を充実させるために、以下の点について留意する。

- ・話し合いがねらいの達成の有効な手段かどうか、また多様な意見が出てくるような課題かどうかを吟味する。
- ・話し合いの目的を明確にする。
- ・一人一人の意見の把握をし、全体交流の場などで意図的に指名する。
- ・児童生徒の発言を関連付けながら、論点を明確にしていく。
- ・生徒指導の3機能「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的な人間関係を育成する」を意識する。
- ・話し合いに必要な技能の育成を目指す。

単元計画をつくり、育成すべき資質・能力をバランスよく配置することで、1時間ごとのつけたい力を明確にし、密度の濃い授業を実現させる。児童生徒に「わかる」「できた」喜びを味わわせるとともに、苦手意識のある教科に対しても粘り強く取り組む態度を育成する。

5 クロス集計について

(1) クロス集計結果の概要（色付きは最も正答率が高いもの）

児童生徒の朝食を食べる割合と平均正答率の関係（平日）

選択肢	小学校6年生			中学校3年生		
	国語正答率	算数正答率	理科正答率	国語正答率	数学正答率	理科正答率
毎日食べる	65.8	66.2	67.5	69.6	48.3	47.9
ほとんど毎日食べる	57.7	56.7	59.9	68.4	46.1	46.1

あまり食べない	56.5	51.1	56.1	61.2	31.2	39.5
全く食べない	36.9	35.1	38.0	58.2	33.5	37.4

児童生徒の就寝時刻と平均正答率の関係（平日）

選択肢	小学校6年生			中学校3年生		
	国語正答率	算数正答率	理科正答率	国語正答率	数学正答率	理科正答率
決まった時刻に就寝	65.7	66.3	67.2	69.3	49.1	48.7
ほぼ決まった時刻に就寝	66.6	65.4	68.2	68.9	45.2	47.0
あまり決まっていない	56.9	57.5	58.9	68.0	46.1	44.1
全く決まっていない	51.0	52.0	51.9	62.4	43.3	42.6

児童生徒の1日当たりのゲーム時間と平均正答率の関係(平日)

選択肢	小学校6年生			中学校3年生		
	国語正答率	算数正答率	理科正答率	国語正答率	数学正答率	理科正答率
全くしない	74.9	73.2	76.7	76.4	53.7	52.6
1時間未満	72.8	71.7	74.1	69.9	50.7	50.3
1時間以上、2時間未満	68.7	65.8	68.8	69.6	47.6	48.6
2時間以上、3時間未満	61.5	62.7	64.3	68.3	47.9	46.4
3時間以上、4時間未満	56.4	58.0	60.1	63.2	40.2	41.0
4時間以上	56.0	58.3	56.4	66.1	40.1	43.3

スマートフォン等、携帯電話を使ったゲームも含まれる

(2) 分析結果

「朝食を毎日食べる」「決まった時刻に就寝する」「ゲームの時間が1時間未満」等、基本的な生活習慣が確立している児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向が見られる。家で計画を立てて学習する児童生徒が全国値を下回っていることも学習内容の定着に影響を与えていることが考えられることから、家庭と学校が連携して生活習慣を整える必要がある。

(3) 改善の方策

学力向上会議や学級懇談会、学校便り、ホームページ等を通して、規則正しい生活と学力の相関関係を示し、基本的な生活習慣の確立に向け家庭への協力を求める。あわせて、付けたい力の確実な定着・向上につながる家庭学習の取組を、家庭と協働して進める。

6 学校質問紙調査結果について

(1) 学校質問紙調査結果の概要(数値は肯定的回答の割合%)

色つき：全国値より5ポイント以上 太線枠：全国値より5ポイント以下

【児童・生徒の学習状況】 「学びに向かう力」に関連

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか	88.9	98.8	98.8	100	99.2	98.1
調査対象の児童生徒は授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	77.8	85.6	87.2	91.7	92.4	95.6

【授業改善・学習指導】 「主体的・対話的で深い学び」「新大分スタンダード」に関連

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができているか	94.4	88.9	87.2	91.7	89.1	87.9
習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	88.9	92.6	88.0	75.0	86.6	88.2

【授業改善・学習指導：国語に関すること】

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行いましたか	100	98.7	94.4	100	99.1	97.5
目的に応じて話したり聞いたり必要に応じて質問したりする授業を行いましたか	94.4	97.1	95.4	91.7	98.3	93.4
新目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行いましたか	100	93.9	92.7	91.7	97.5	96.1
目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行いましたか	100	97.1	95.6	91.7	96.7	95.8

【授業改善・学習指導：算数・数学に関すること】

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	61.1	81.1	84.3	91.7	85.7	82.8
観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす活動を行いましたか	100	96.3	92.4	83.3	87.4	78.7
公式やきまりなどを指導するとき、児童生徒がその根拠を理解できるように工夫していましたか	100	98.0	97.1	91.7	95.0	97.0

【授業改善・学習指導：理科に関すること】

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか	100	95.5	93.9	100	94.1	94.4
実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	94.4	94.7	94.2	100	99.1	96.8
自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行いましたか	94.4	95.5	93.8	66.7	79.9	79.2
観察や実験の結果を整理し考察する指導を行いましたか	100	97.6	97.1	91.7	95.8	94.6

【家庭学習】

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか	100	99.1	96.5	100	97.5	93.6
児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか	94.4	96.7	92.4	100	100	86.7
家庭学習の取組として、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしましたか	94.4	94.3	89.7	100	97.7	86.9

【開かれた教育課程について】

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	88.9	83.6	82.0	91.7	78.1	79.7
保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事などの活動に参加していますか	100	95.5	94.6	100	91.6	77.5

(2) 分析結果

【小学校】

「学習状況」について小学校5年生までの学習規律の維持、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組の実施について全国を下回った。

「授業改善・学習指導」に関連する質問事項の多くで、全国値と同程度以上となっており、新大分スタンダードに基づく授業改善の取組が推進されている。

算数における「実生活における事象との関連を図った授業を行った」とする数値が全国を20ポイント以上下回っており、日常生活を生かした問題設定や生活にもどす問題や活動の設定等が求められる。

「開かれた教育課程」に関連する項目については高い水準を維持しており、学校運営協議会を通して、家庭・地域と教育課程の趣旨や目指す生徒像の共有が図られている。

【中学校】

「学習状況」について中学校2年生までの学習規律の維持について全国を下回ったが、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組の実施については100%となった。

「授業改善・学習指導」では、「習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか」という質問に対し肯定的な回答が75%となっており、全国値を約13ポイント下回ったことから、単元計画をすべての単元において作成し、見通しを持った指導をすることが求められる。

「開かれた教育課程」に関連する項目については、高い水準を維持しており、学校運営協議会を通して、家庭・地域と教育課程の趣旨や目指す生徒像の共有が図られている。

(3) 改善の方策

全ての学校において、組織的な授業改善の推進が求められるため、管理職・教務主任等による授業参観及び計画的な互見授業の取組を継続する。また、若手教職員の育成のためにも全校または学年部において学級経営や学習規律等の共通理解を図る。単元を通して見通しを持ち、資質・能力をバランスよく育成するために、単元計画を作成し、付けたい力を明確にした指導の充実を図る。中学校においては、学年部・教科を越えた授業改善のさらなる推進を目指す。

7 現状と今後の取組

<現状>

【小学校6年生】

算数、理科については平均正答率が全国平均以上だったが、国語は2ポイント下回った。理科については日田市実施分1月学力調査結果より改善が見られた。

質問紙調査では、基本的な生活習慣、家庭での学習習慣、新聞を週1回以上読むなどの肯定的回答が全国平均を下回っている。

無回答率が低く、粘り強く解答しようとする姿勢が見られる。また、地域行事の参加等、社会参画意識が高い。

【中学校3年生】

国語は平均正答率が全国平均と同程度、数学、理科は平均正答率が全国平均を下回った。

質問紙調査では、自尊意識、将来に対する意識、家庭での学習習慣、数学に対する愛好度、数学・理科の授業の内容がよくわかるなどの項目が全国平均を下回っている。

無回答率が低く、粘り強く回答する姿勢がみられる一方、考えを発表する場面で、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表しようとする意識が全国平均を下回った。

<今後の取組>

日田市学力向上の取組（令和3年4月作成）の継続

3つの柱（「授業改善の推進」「学習定着状況の確実な把握」「個に応じた指導の充実」）の中で重点的に取り組む内容

授業改善の推進

小学校

- ・ 単元計画の作成による見通しを持った授業展開（育成すべき資質・能力をバランスよく配置する）
- ・ 教師も児童も「今日何をできるようにすればよいか（何ができるようになればよいか）」を自覚するために、その1時間でつきたい力を明確にする。（評価規準の設定）
- ・ ICT機器の活用により視覚的な支援や協働学習の効率化を図る。
- ・ 振り返りの時間を活用し、適切に評価を行うことで、教科の愛好度・自己肯定感の向上を図る。

中学校

- ・ 単元計画の作成により、1時間ごとのつきたい力を明確にし、密度の濃い授業を実現させる。
- ・ ペアやグループなど小集団での話し合いもさせながら、「全員の発言」を促す。
- ・ 話し合い活動がねらいの達成の有効な手段かどうか、多様な意見が出てくるような課題かどうかを吟味したうえで話し合い活動を仕組む。
- ・ 話し合いに必要な技能の育成を目指す。

学習定着状況の確実な把握

- ・ 授業及び家庭学習による日常的な学習定着状況の把握
- ・ 評価テスト、単元末テスト等による定期的、客観的な学習定着状況の把握
短い期間でPDCAのサイクルを行う

個に応じた指導の充実

- ・ 単元末の習熟度別学習や朝会・帯タイム等を活用した補充学習の推進
学年部・教科部会等で自校の課題解決に向けた取組を組織的に行う
（AIドリル「Qubena」、問題データベースの活用 等）

各学校による調査結果の分析と具体的な対策の作成及び取組

- ・ 各学校は9月上旬までに調査結果を分析し、成果と課題を明らかにしたうえで、授業改善等の具体的な対策を講じ、共通理解を図り次第取組を始める。

分析：どんな取組が良かったのか、何が足りなかったのか

対策：授業改善、指導体制の工夫、学習規律の見直し、家庭学習の見直し 等

1月の日田市学力調査において、各学校の学力向上の取組の成果を検証

- ・ 各学年、各教科において1月の日田市学力調査での目標値（偏差値50以上、昨年度同一集団偏差値よりポイント上昇 等）を定め、授業改善を行う。